

6 卵黄加食塩培地で卵黄反応陰性黄色ブドウ球菌のハロー形成の性状を活用した1酪農場の乳房炎対策

南丹家畜保健衛生所
○田中義信 極山 太

【はじめに】卵黄反応（LV）は黄色ブドウ球菌（SA）の判定上重要な性状である。一方、LV陰性（LV-）SAが乳汁検査で検出されることが知られている。1酪農場において卵黄加食塩培地（SEY）でハロー形成（halo:コロニー周囲の透明帯）のLV-SAを分離したことから、SAの清浄化対策でLV-SAの検出漏れを解消するため、haloの性状の活用を試みた。【材料及び方法】1酪農場で32か月間、搾乳牛96頭から乳汁延べ450検体を採取し、10%及び16.7%卵黄液SEYに塗布後、37℃で4日間好気培養した。分離菌についてLV、halo、コアグラゼ反応、同定検査、SAラテックス凝集反応を実施した。さらに、これらの検査成績に基づきNOSAIと協力して搾乳立会、搾乳衛生指導を継続的に実施した。【結果】SAは実36頭、延べ112検体から分離された。そのうちLV-/halo+SAは11検体（SA検体の9.8%）から分離されたが、対策12か月後以降、分離されなくなった。搾乳衛生対策前に乳房炎罹患牛18頭中10頭からSAが検出されたが、対策21か月後以降、SAによる乳房炎の発生は消失した。【考察】当該農場のLV-SAは以前の検査で見逃されていた可能性がある。haloの性状をSA検査で活用することにより、LV-SAの摘発が可能となり、SAの乳房炎対策に有効であることが示唆された。